# 集 中 治 療 部

織田　成人

本院においては新病院（現にし棟）の建設に伴い手術室と隣接してすでに1979年頃よりICUが設置されており，救急部により運用されていたが，それを追認するような形で1982年に集中治療部が予算措置された。そして当初より集中治療部と救急部はドッキング方式で運営されることとなったので，スタッフは全て救急部との併任であり，初代部長（助教授）には救急部長であった庵原昭一（1956年本学医学部卒）が就任した。ICUはスペース的には10床のベッドが置けるように設計されていたが，看護師数の不足により，当初は４床を稼働させるのが精一杯であり，常に満床の状態であった。ICUにおける臨床活動はしだいに活発となり，1984年には厚生省より４床の特定集中治療管理加算の指定を受けることができた。

1984年庵原昭一が国立千葉東病院の院長に転出した後を受け，平澤博之（1966年本学医学部卒）が救急部長と併任で集中治療部長に就任した。この当時は集中治療部の医局員は各科からのローテータを含めても６名程度であり，日直，当直はICUを利用する患者の数に比例して，各科に分担してもらっている状態が続いた。しかし1987年から研修医が直接救急部・集中治療部へ入局するようになり，スタッフも次第に充実していった。それに伴い各科で発症した多臓器不全をはじめとする最重症患者を収容し，各種の人工補助療法を駆使して集中治療を行い，治療効果をあげるようになり，1993年からは当直体制も全て集中治療部のスタッフで充足できるようになった。

この間，研究活動はきわめて活発に行われ，国内外の各種の学会で多くの研究成果を発表してきたが，1990年４月には第６回日本Shock学会を，1991年10月には第２回急性血液浄化研究会を，1995年12月には第４回日本集中治療医学会関東甲信越地方会をそれぞれ主管した。また日本集中治療医学会専門医制度の発足にともない，1992年には日本集中治療医学会認定専門医研修施設に指定され，その後多くの学会認定集中治療専門医を育成してきた。1994年にはICUの全面的な改修が行われ，各種のモニタリングシステムも一新された。1995年に救急医学講座が開講したのにともない，救急部とドッキング方式で運営されている集中治療部も一段と充実し，それにともない看護婦数もしだいに増加していき，病床も６床を稼働できるようになった。この間医局員数も増加し，院内各科からのローテータ，さらには他大学からの国内留学生の研修も引き受けるようになった。1999年３月には，平澤博之が会長として第26回日本集中治療医学会を幕張メッセで開催した。

2006年３月に，平澤博之教授が退官した。その後任として，助教授であった織田成人（1978年本学医学部卒）が2006年８月に救急集中治療医学教授，救急部・集中治療部長として赴任した。当院集中治療部の特徴は，制度的には救急部とドッキング方式で運営されていることであり，診療内容としては各種の血液浄化法をはじめとする人工補助療法を駆使した重症患者管理にその特徴をみいだすことができ，多臓器不全症例の治療成績に関しては他施設の追従を許さないものがある。また特定集中治療管理加算病床も現在では８床に増加しており，今後にし棟の改修に伴い４階へ移転してICU18床，CCU４床へと大幅に増床される予定である。当部のアクティビティの高さは，集中治療専門医を目指して入局する後期研修医の増加や，国内の他施設からの国内留学希望者の存在からもうかがい知ることができ，今後ますます発展していくものと考えられる。

（おだ　しげと）